

高雄日本人学校の風

校長 高口 和治

中正国小は、冬休み中です。

朝、生徒会を中心に中正の正門と玄関をきれいにしています。

これが、広がりを見せてきています。生徒会本部は、自分たちだけでやって他の人たちが反応してやるならそれでいいし、しないならいいか、というスタンスでした。

階段の上をモップがけをしていました。(私は、ガムのこびりつきが気になり、けずってみました。きれいになり 満足しました。)階段は、しばらく中正の冬休みの安親班の集合場所になっていたのも、無理をしない程度にゴミ拾いをしていました。

そうこうしているうちに、大石先生が正門前の葉っぱが気になり、はきだしました。生徒会でない中学生もはきだし、葉っぱを集めてくれるようになりました。次の日には、李さんから借りて大石先生が空気がでる葉っぱはき機械を使い始めました。そうすると、それを集める人が増え始めました。増えていく中で4年生がまず来てくれました。大石先生に聞いてみたら、他の学年の子どもも余裕があるときは手伝いに来ているようです。とのこと。バスで通学している子どもや朝用事のある子どももいるので、全員がしているわけではないのですが。私達が、東日本大震災から日本人として改めて見直している「人のためになる。それも見返りを求めない」という行動になっています。自発的であろうが、声をかけられてやろうがあまり問題ではありません。

というのは、中村先生から「子どもはこんな感想をもっています」と子どもの思いを教えてもらいました。「(挨拶タッチを終えてから掃除にきたときの気持ち) 今朝、分かった事があります。それは、手伝う事っていい気分になるんだなと改めて思いました。手伝うと、まわりの人もうれしいし、いい空間になる。今朝もきっと、朝そうじをした人は、みんないい気持ちになったと思います。」なにかをすると、なにかを感じます。こんな気持ちのいい、それも、環境や人のためになるなんて素晴らしい。そこで、中村先生に何人も朝、掃いていたの原因は？と聞いてみました。中村先生「中学部生徒会のチラシを学級で読んだら、これまで取り組んだことがないことだったので、チャレンジしようという雰囲気になりました。それに、子ども達はチャレンジして、手伝うっていい気分になるんだな、と感じたようです。」他の子ども達には確かめていませんが、同じような気持ちになったらと思う。エンテイ国中の校長先生と今週、話をしていたとき、「日本人は、東日本大震災のときに、あんなひどい状況なのにご飯をもらいにいくときにちゃんと並ぶ」私は、言いました。「日本人の全部は不思議に思わない光景です。」

2月9日（月）

分電工事の最後の工事になりました。何をするかというと、外から校舎の中に電気を流すのに、メーターをつけて切り替えをやるらしいのです。そのために、囲いを作る工事が必要なのだそうです。そこで、子どもたちにとっては、まったく安全に問題がないとわかってもらうように、「工事中 通り抜けできます」の意味の張り紙をしてまわっていました。グラウンド側の階段に行くと、菅原先生の声が響いています。え、と感じながら、階段では、子ども達が階段掃除をしていました。その時間帯はいつも玄関にいるので私はきづきませんでした。すごいですね。確かに、階段がいつもよりきれいだなとはおもっていたのですが。感謝です。

2月10日（火）

学校運営委員会がありました。警備員の増強、防犯カメラの増設などが話し合われました。予算も話し合われました。来年度の主な学校行事も報告してきました。

2月11日（水）

中学部の職業体験の学習に少し回ってみました。朝、用事があったので、10時ころに櫻花日語学園に行きました。男子2人がいて、3人の台湾人が授業を受けていました。レストランでの注文の場面です。1人がボーイさんの役割をして、学習を進めていました。もう一人も、お客さんの役でお手本になっていました。

その後、「春夏冬」に行きました。私が最初のお客ということで、緊張していた様子です。お茶の出し方はおぼつかない、という感じです。顔を見ると、二人ともこわばっていました。引率の先生と一緒にご飯を注文しました。そうこうするうちに、5人と2人の2組が入ってきました。ちょっと慣れた手つきになってきました。普段とはちがった緊張感。

昼食後、玉成幼稚園に行きました。昼食の後で、子ども達は昼寝に入ったようです。先生に対して質問の時間でした。「幼稚園の先生になろうと思った訳は？」など。親切に丁寧に答えてくれていました。2時からエンテイ国中の校長先生がくることになっていたのですが、今年は、3つしか回ることはできませんでした。

2月12日（木）

朝10時に中正の校長先生のところに行ってきました。来年度のグラウンド借用の契約書の締結、卒業式でのスピーチをお願いしました。卒業式のスピーチは、3番目で台湾人は1人だけです。できれば、日本語で……。と話をしたら、ちょっとその気になっていたような気がします。さらに、グラウンドに時計を置きたいのだと伝え、信義楼のグラウンド側につけることにしました。ちょっと小さめですが、時間を見て動くという意味では大変意義があります。

